第 2015-38 号

恵みと真理のニュース

2015 年 9 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]

神様は私の全ての家族に大きい喜びを与えてくださって、私の切ない期待と希望を成し遂げてくださいました。

賛歌。ダビデの詩。主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。 主はわたしを青草の原に休ませ／憩いの水のほとりに伴い。 魂を生き返らせてくださる。主は御名にふさわしく／わたしを正しい道に導かれる。 死の陰の谷を行くときも／わたしは災いを恐れない。あなたがわたしと共にいてくださる。あなたの鞭、あなたの杖／それがわたしを力づける。わたしを苦しめる者を前にしても／あなたはわたしに食卓を整えてくださる。わたしの頭に香油を注ぎ／わたしの杯を溢れさせてくださる。命のある限り／恵みと慈しみはいつもわたしを追う。主の家にわたしは帰り／生涯、そこにとどまるであろう。詩篇23編は私が 朝に目覚めるとき、夜に寝床に入る時覚えながら心と霊で主を賛美し主に感謝する聖書の御言葉です

私は酷く偶像崇拝をする家庭で 嫁いました。青年の頃は真実な信仰ではなかったですが神様を支える生活をしていました。しかし、結婚してからは姑舅の強い反対で教会に行けなくて神様を支えませんでした。神様を礼拝できないと体は楽でしたが日々の生活が空しくて生きる意味もなくなりました。しばらくは落胆して絶望しました。しかし、すぐ心を変えて誠実に嫁と妻の役に力尽くして家族が変るため私の信仰生活のため神様に涙の祈りました。

“今日も罪人を救ってくださる神様、救いの喜びを知らなくて罪の中でいる家族を哀れんでください。周りの人が救われるように祈った使途パウロの告白のように私がキリストと離れる想像も出来ないことですが家族が救われるようになるならそうしてください。家族が救われるようにしてください。私が家族を伝道するように知恵と信仰の胆力をください。再び礼拝の喜びと感動を感じるようにしてください。”愛が溢れる慈しみ深い神様は祈りを聞いてくださいました。神様は旦那の家族と旦那の心を変えてくださり、切なく願っていた通り恵みと真理教会で信仰生活をするようになりました。そして、旦那も主を救い主として受け入れ共に教会に通うようになりました。世界の全てを得たようでした。その間神様の恵みで息子と娘二人を生んで育てました。

一人の息子が婚期が過ぎても配偶者を出会えなかったです。息子の結婚のため神様の助けと摂理を願いながら8年を神様に祈りました。その期間祈りの答えが遅くなる時に不平もしましたが、私の信仰を振り返ってみながら悔い改めてもっと神様を支え最後まで希望を捨てなくて神様の祝福を下さることを願いました。教会で、区域で多くの聖徒が祈ってくださいました。その結果旦那の友達を通して神様は予備してくださった嫁を出会いました。息子の44歳の時でした。言葉で表現できないほど感謝でした。嫁が神様を信じていたのでもっと神様に感謝しました。

結婚が遅くなって子供が生まれるか心配しましたが神様は私と息子の切ない祈りと願を忘れなかったです。私の願を答えてくださりきれいな女の子を与えてくださいました。限りない喜びで豊かな救いの恵みを予備してくださり時によってくださる神様に感謝し賛美捧げました。

旦那の家族の中で叔母さんと義弟が私が教会に行って神様を支えることを酷く反対しました。偶像崇拝しないから数年間家に一回も来なかったです。一人二人救われイエス様を信じましたが一番上の叔母さんだけは最後まで反対して迫害しました。

そうするうちに叔母さんの長男が重い病気にかかりました。回復を期待しないほど大変な時にイエス様を受け入れてから世を離れました。すると頑な叔母さんも人の無能と人生の空しさで偶像崇拝を捨て両手をあげて主の前で出ました。教会に行って礼拝を捧げるとき御言葉の恵みと聖霊の働きで魂の救い、その意味と人生の理由と目的を悟って誰よりも硬い信仰と熱い愛で主を支える真実な聖徒になりました。以前は私の信仰生活を迫害者でしたが今は信仰生活を助ける協力者であり後援者になりました。神様に栄光になりました。

私が初めて結婚した時を考えると感慨無量です。婿は職場の事で中国で生活をしている二番目の娘まで、私の三兄弟の子供の家族全てがみんな集まって神様を支えます。叔母さんたち家族もみんな救われその中で何人の叔母さんが恵みと真理教会で信仰生活をしています。節日で家族みんなが集まったら偶像崇拝と世の話しではなく神様から受けた恵みと愛を離しながら神様に感謝賛美を捧げました。

天国で生命の本の中に名前が記録されたことより喜びと幸せがどこにありますか、 一歩先のことが予想できない世では分からないことです。私の救い主がくださった恵みをいつも賛美します。神様の恵みを賛美捧げます。

“あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれています。 それは、あなたがたが信仰の実りとして魂の救いを受けているからです。”（ペテロの信徒への手紙1：8,9）“。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」”（使徒言行録16：31）ハレルヤ！

[信仰コラム]

アブラハムの信仰に属した者

“… 信仰に堅固になって 神の約束を不信仰のゆえに疑うようなことはせず、かえって信仰によって強められ、栄光を神に帰し、神はその約束されたことを、また成就することができると確信した。 だから、彼は義と認められたのである。…”（ローマ人への手紙，４：１６～２５）

信仰に対して論じようと思えばアブラハムの信仰を漏らすことができないです。アブラハムを示して ‘信じるすべての者の先祖’（ロム 4:11）と言ったし、“信仰によった者は信仰があるアブラハムと一緒に幸せを受けると”（行 3:9）と言いました。 私たちがアブラハムの信仰に関して聖書を詳考してその信仰に従う者にならなければならない理由がここにあります。 本文に記録されたお言葉を中心に私たちが模範としなければならないアブラハムの信仰に関してよく見ます。

第一に、アブラハムの信仰は神様のお言葉に対する信仰でした。

アブラハムは神様にどんなしるしや表蹟を求めなかったです。ただ神様がおっしゃったことで十分でした。 年が 75 歳にまだ子がいなかったが彼は約束した神様のお言葉をそのまま信じました。 年 99 歳になるまで子がいなくても神様のお言葉をそのまま信じて表徴を求めなかったです。 神様がおっしゃったことで十分な信仰、このような信仰がアブラハムの信仰です。

二番目で、アブラハムの信仰は神様がなさる仕事に関与しないで自分が遵行しなければならないことにだけ専心全力する信仰でした。

神様がアブラハムに多くの子孫をくださると言ったが実際に自分とその妻サラの年を考慮して見れば見こみがない事でした。 しかしアブラハムはこんな事で悩まなかったです。 神様に ‘どのように’という質問を投げなかったです。 それは神様の主権に属した問題なので自分が関与する事項ではないと決めました。 このようなアブラハムの態度が聖書の多くの所に現われています。 彼は神様の命令を受けると行くところが分からなかったが直ちに神様が指示する地に進みました。 ‘どのように’ して神様の指示した所へ行くことができるか悩まなかったです。 神様が適切な方法で導くことを信じました。 あなたの子、あなたの愛するひとり子イサクを連れてモリヤの地に行き、わたしが示す山で彼を燔祭としてささげなさいという神様の命令にも彼は無条件従順しました。 神様に ‘どのように’ して燔祭でささげるかイサクをまた生かしてもう約束したお言葉を成就するようにおっしゃるか尋ねなかったです。 神様のお言葉に従って自分がすべきことに専念すれば神様がなさる仕事は神様がしてくださるというのを全面的に信じることがアブラハムの信仰です。

三番目で、アブラハムの信仰は神様の約束したお言葉に対する確信を持って神様に栄光をささげる信仰でした。

アブラハムは神様が彼の無限な知恵で約束したお言葉を成すことを信じて神様に栄光をささげる信仰でした。また神様が彼の無限な能力で約束したお言葉を成すことを信じて神様に栄光をささげる信仰でした。

パウロ使徒は告白するのを “アブラハムの信じたところ あなたを立てて多くの国民の父としたと書いてあるとおりである。彼はこの神、すなわち、死人を生かし、無から有を呼び出される神を信じたのである。（ロム 4:17） またアブラハムは神様が彼の永遠に便しない信実なさることで約束したお言葉を成すことを信じて神様に栄光をささげて感謝と讃尿を申し上げました。

アブラハムは神様に口約束を受けたが今日の私たちは神様の約束を記録されたお言葉で受けました。 アブラハムよりずっと詳しくて多様で豊富な約束のお言葉を受けました。ただ私たちにいなければならないことはアブラハムのような信仰です。神様が約束した驚くべきで偉大なことが果してどのように成り立とうか悩まないでください。 ただ自分がすべきことが何やらか分かってこれを遵行するのに専念をつくせばいいです。 神様がすべての口約束を充分に成すはずなのであらかじめ楽しがって感謝して讃尿して神様に栄光をささげてください。 皆さんは ‘アブラハムの信仰に属した者’、屈強な信仰の持ち者になるのを願いします。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’ 本の語り中」

“しかり”だけあって“否”がない

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

今日の本文に出る “しかり”という言葉はどんな指示や要求に対して肯定的な回答を現わす意思表示です。 “否”は不正、拒否、反対、拒絶の意思表示です。 私たちは一生を生きて行きながら “しかり”と “否”を限りなく言います。 “しかり” あるいは “否”と言った結果が非常にささいで別に意味のない場合があるが、すごく重大な結果をもたらしたりします。 ところで他の人の “しかり” または “否”という意思表示が私に影響を及ぼす場合もあります。 その中には私たちの運命に決定的な影響を及ぼすものがあります。 今日はこんな事に関してよく見ます。

第一、イエスキリストは父神様のみ旨と要求に対して “しかり”だけあって“否”がなかったです。

すべての人は神様の前で罪人です。 人類の先祖アダムが罪を犯したからです。 アダムは神様が禁じた善悪を知る木の実を食べました。 神様の命令に不服して犯罪者になりました。 罪を犯したアダムとエバは神様を恐れて園の木の間に隠れました。 神様がアダムを尋ねて来てアダムとエバに皮の服を作って着せました。 罪のない獣が血を流して死にました。 その獣の死はすなわちあがないの死を意味しています。 将来に救世主がいらっしゃって人間の罪を代わりに担当して血が流れて死ぬことが啓示されました。 それから人間が犯した罪のあがないのために贖いのお供えで点なくて完璧な獣を捕って祭壇に捧げました。 これは神様が命じた贖いの祭祀です。 しかし牛や羊のような獣の死とその流した血が人の罪を完全にあがないすることはできないです。 その理由は人の罪は獣ではなく人があがないしなければならないしその人は罪が全然ない人ではなければならないからです。

結局神様の独り子イエスキリストが父の旨に従順してこの世の中へいらっしゃらなければなりません。 天地万物を造った神が人の身を着て時間と空間の制限を受けてこの地に足を踏んで暮しながら人々からあらゆる蔑視と薄待をすべて受けなければならない。 そして人間の罪を代わりに担当して十字架に釘付ける事ができなく死ななければならないのです。 これが父神様のみ旨です。 イエス様は完全に従順しました。 果して神様のイエスキリストが童貞女の身から聖霊に孕胎されて人の身を着て世の中へいらっしゃいました。 イエス様は自分があがないの死を死ぬようになる時があまり残ってないある日に自分がエルサレムで十字架に釘付けて死ぬことを弟子に何回も予告しました。 イエス様はつかまれる前の日の夜にゲッセマネ園で地に伏せてこんなに祈りました。 “父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。”(ルカによる福音書, 22:42). 罪がないイエス様が人間のすべてのみにくい罪を代わりに担当しなければなりません。

そして審問を受けて十字架に釘付ける事ができなくたまらなくなければなりません。 実に無惨な事です。 イエスは苦しみもだえて、ますます切に祈られた。そして、その汗が血のしたたりのように地に落ちた。(ルカによる福音書 22:44) イエス様は汗を流しながらも父の旨に “しかり”と回答なさいました。 イエス様は父の旨に対して “しかり”だけあって “否”はなかったです。 イエス様は聖書に記録されたとおり私たち罪のために死なれて葬ったところなってから聖書に記録されたとおり三日ぶりにまた生き返えました。 (コリント人への第一の手紙 15:3,4)

第二、神様の約束はしかりばかりでイエスキリストにあって “否” することがない。

聖書は神様が人間と結んだ口約束で契約です。 神様のすべての賞罰はこの契約によって与えられる報応です。 ここで私たちがこのような質問を持つようになります。 その口約束が果して有効なことであり、私たち各人に必ず適用されることなのかです。 その質問に対する答が本文にあります。 “神様の約束はしかりでイエスキリストにあって ‘しかり’になると言いました。

その約束の中に一部を列挙して見ます。 罪の赦しに対する約束があります。 ヨハネの第一の手紙, 1 章 9 節には “もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。” としました。 神様の子になる約束があります。 ヨハネによる福音書 1 章 12 節、13 節には “しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。 それらの人は、血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず、ただ神によって生れたのである。” と言いました。 祈祷の回答に対する約束があります。 ヨハネによる福音書 16 章 23 節には “その日には、あなたがたがわたしに問うことは、何もないであろう。よくよくあなたがたに言っておく。あなたがたが父に求めるものはなんでも、わたしの名によって下さるであろう。” としました。

復活に対する約束があります。 テサロニケ人への第一の手紙 4 章 16 節、17 節には “すなわち、主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあって死んだ人々が、まず最初によみがえり、それから生き残っているわたしたちが、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう。” しました。 天国に対する約束があります。 ヨハネによる福音書 14 章 3 節には “そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。” としました。

神様の貴重で極めて大きい約束はキリストにあって “しかり”になります。 神様は彼の約束に対してキリストの中にいる者には “否” とする事がないです。

第三、聖徒は神様のお言葉に対して “しかり”だけあって “否”があってはいけないです。

“しかり”と して “否”があってはいけないということは主神様の約束と命令を徹底的に信じて従順しなければならないという意味です。

神様の口約束と命令に対する従順にいて模範的な人物が聖書に記録されています。

ノアは立派な示しです。 ノア時代人々の腐敗と堕落は極まりました。 罪悪は審判と滅亡に至らせます。 当時の人々はノアを通じて警告なさる神様のお言葉を完全に無視してしまいました。 神様がノアに言い付けるのを船箱を作って洪水の審判を備えなさいと言いました。 船箱の規模は物物しかったです。 その船箱には各種獣も入って行かなければならなかったからです。 規模が途方もないので費用と努力がたくさん必要となりました。 120 年という長い歳月を忍耐しなければならなかったです。 また人々の否定的な忠告と物笑いを退けて耐えなければならなかったです。 しかしノアは神様が自分に命じたとおりすべて遵行しました。

洪水以後に神様のお言葉に完全に従順した示しの中にアブラハムを漏らすことができない。 ある日神様がアブラハムを呼んで言い付けるのを “神は言われた、「あなたの子、あなたの愛するひとり子イサクを連れてモリヤの地に行き、わたしが示す山で彼を燔祭としてささげなさい」。” としました。 百歳に生んだひとりの息子をお供えで差し上げなさいと神様が言い付けました。 ところでアブラハムは黙黙と従順しました。 アブラハムはそこに祭壇を築き、たきぎを並べ、その子イサクを縛って祭壇のたきぎの上に載せた。そしてアブラハムが手を差し伸べ、刃物を執ってその子を殺そうとした時、主の使が天から彼を呼んで言った、「アブラハムよ、アブラハムよ」。彼は答えた、「しかり、ここにおります」。み使が言った、「わらべを手にかけてはならない。また何も彼にしてはならない。あなたの子、あなたのひとり子をさえ、わたしのために惜しまないので、あなたが神を恐れる者であることをわたしは今知った」。” アブラハムは神様の約束と命令に対して “アーメン”と “しかり”だけあって “否”がなかったです。

イエスキリストにあって “しかり”だけあって “否”のない聖徒は聖書どおり生きて行きます。 聖書には多くの約束と共に多い命令があります。 このような命令は私たちを抑圧するとか縛りつけるではないです。 従順すれば幸せと有益を享受するようにするためでくださったのです。 聖書に記録されたお言葉の中から何種類の命令をよく見ます。 “ある人たちがいつもしているように、集会をやめることはしないで互に励まし、かの日が近づいているのを見て、ますます、そうしようではないか。” (ヘブル人への手紙, 10:25). “だから、愛する兄弟たちよ。堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはないと、あなたがたは知っているからである。” (コリント人への第一の手紙 15:58). “いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなたがたに求めておられることである。”(テサロニケ人への第一の手紙, 5 :16～18). このような神様の約束と命令に対して皆さんは “しかり”だけあって “否”がない生活をなさってください。

聖徒の皆さんに聞きます。 イエスキリストは神様父のみ旨を果たすために “しかり”だけあって “否”がなかったという事実を皆さんは信じますか? 神様のすべての約束はキリストにあって “しかり”だけなって “否”がないという事実を皆さんは信じますか? 皆さんはキリストにあって神様を向けて “しかり”と “アーメン”だけあって “否”がない従順の生活をなさいますか? 神様の約束と命令に対して “しかり”だけあって “否”がない人よりもっと賢い人がないです。 もっと強い人がないです。 もっと幸せな人がないです。 皆 “アーメン”で肯定的に回答してください。